

平成29年度大阪府立八尾支援学校 第2回学校協議会報告

平成29年12月15日

□日 時 平成29年12月15日(金) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 生活科室

- テーマ
- ・創立50周年記念事業報告
 - ・第2回授業アンケートについて
 - ・平成29年度学校教育自己診断進捗状況について
 - ・居住地交流進捗状況について
 - ・中河内地域のセンター的機能の取り組み進捗状況について
 - ・学校見学会参加状況・入学希望者
 - ・平成30年度使用教科用図書について
 - ・保護者からのご意見

□学校協議会委員

- | | |
|--------|-------------------------|
| 岡崎 裕子 | (大阪大谷大学 教育学部 教授) |
| 奥野 美和子 | (東大阪子ども家庭センター 課長補佐) |
| 御前 敬 | (八尾市障がい福祉課 課長) |
| 唐渡 清美 | (東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長) |
| 竹井 雅代 | (本校 PTA 会長) |
| 山崎 高義 | (東大阪市障害者就業・生活支援センター 所長) |

□学校協議会事務局

- | | | | |
|--------|----------|--------|---------|
| 岡本 泰宜 | (教頭・小/高) | 山田 美也子 | (教頭・中) |
| 山崎 静一 | (事務長) | 荒木 智恵子 | (首席) |
| 井川 忠都 | (首席) | 横山 眞二 | (首席) |
| 山本 耕平 | (首席) | 松村 由美 | (部主事・小) |
| 長谷川 次郎 | (部主事・中) | 荒木 聖 | (部主事・高) |

□協議会 内容

1. 学校長あいさつ

校長：府立学校における頭髪指導に関するアンケートが実施された。子どもたちの人権を大切にすることがベースにある。また支援学校では食物アレルギーに関する事案が2件続いた。教育庁からの指導もあり、今後八尾支援学校においても職員朝礼などで食物アレルギーのある児童生徒に関する情報共有を徹底し、緊張感を持って日々の指導にあたる。

2. 学校協議会議事録

教頭：前回の内容をまとめているのでご確認いただきたい。
学校ホームページにも同じ内容のものを掲載している。

3. 創立50周年記念事業報告

校長：1967年創立のこの学校で、子どもたちと50周年を迎えられたことは感慨深い。また周年行事の取り組みでは、PTAの多大なるお力をいただいた。10月31日に八尾プリズムホールで行われた記念式典は、当日の天候にも恵まれ、また先生方の協力のもと、無事に終えることができた。

首席：記念事業の概要について申し上げる。

・記念誌

八尾支援学校の50年のあゆみをまとめている。

第一期の卒業生のアルバムからの写真なども使いながら、これまでの学校の歴史を振り返る内容になっている。また子どもが見て楽しめるように、写真やイラストなどを多く使うなどの工夫も行っている。

・寄贈品

50周年にあたり、PTA、同窓会、柳田製作所、ライオンズクラブから寄贈品をいただいた。

花と緑いっぱいの学校をめざして

高等部の生徒を中心にプランターや花壇に植えた花を育て、花でいっぱいの学校づくりに取り組んでいる。また中学部の生徒を中心に子どもたちがゆっくり過ごせるようベンチなどを制作している。

・記念式典（10月31日）

八尾プリズムホールにて開催された。第一部の記念式典に続いて第二部では、劇団音芽による「オズの魔法使い」を観劇した。

校内イベント（11月6日）

体育館にて児童生徒向けの校内イベントを開催した。中学部生徒の有志によるドラム演

奏、高等部生徒の有志による書道パフォーマンス、PTAコーラス、教員有志による劇や歌のパフォーマンスなどが行われた。

・記念講演会（11月28日）

梅花女子大学の伊丹教授をお招きして教職員および保護者向けの講演会を開催した。当日は保護者にも約20名ご参加いただいた。

・50周年記念式典の事前学習および50周年記念ムービー

50周年の記念式典の子ども向け事前学習に関するプレゼンテーション資料および式典当日に上映したムービーを準備しているの、こちらをご覧くださいながら、当日の様子をイメージしていただきたい。

（質疑応答・ご意見）

ご意見：素敵な式典だったことがイメージできた。1987年に開園したはばたき園は今年30周年を迎える。（委員D）

ご意見：記念式典に参加した。盛大な会で、貴重な時間をご一緒することができた。事前学習を見て、児童生徒や保護者の方が学校をより身近に感じられるように丁寧にされていると感じた。（委員C）

ご意見：子どもも保護者も楽しませていただいた。（委員E）

Q：学校現場では、行事をどう乗り切るのが大事だということを学生に伝えている。ところで、事前学習の資料は一度しか使わなかったのか。（委員A）

A：中学部では、学部集会や学年集会などで複数回見ている。50周年のプロジェクトチームの先生方により資料を作っていただいた。（教頭）

4. 第二回授業アンケート

教頭：まずは配付資料の訂正をお願いしたい。P.9の小学部のアンケートで、2年生、4年生、5年生の合計回収率が100%になっているが誤り。正確には2年生が85.7%、4年生は80%、5年生は88.2%で、合計回収率は91.2%。

小学部についてはおおむね好意的な評価をしていただいている。中学部では学部ごとに参観日を設定している。おおむね好意的な評価だが、小学部に比べると「1 そう思う」の数値が減っている。こうした傾向はこれまでと同様で、学部が上がるにつれて「1 そう思う」の数値が減っていく。高等部においても好意的な評価をいただいている。全般的に好意的な評価だが、中には厳しいご意見もある。たとえば小学部では教材の準備不足や待ち時間の長さ、また高等部では教員の説明が不足していたことや授業中の課題の少なさなどがあげられている。保護者からいただいたご意見を踏まえ、今後教員にフィードバックした上で授業改善していく必要がある。

(質疑応答)

Q：昨年度と最も変わった点は何か。(委員A)

A：高等部の回収率が今年度は80%を超えたことが最も大きな変化である。だが、他学部にくらべると回収率はさらに上げていく必要があると考えている。(教頭)

Q：学部が上がるにつれて出席者数も減っている。どのようにすれば参加者や回収率が上がるのか、具体的な方策があればいいが。また、授業と授業の間の時間も参観することは可能なのか。(委員A)

A：授業参観期間を一学期に三日間設けている。登校から下校まで、授業ももちろんのこと、日ごろの様子も見たいというご要望があったのでそれにお答えする形で参観期間を設定した。また、参観当日の保護者の出席率については、宿泊学習や修学旅行の保護者向け説明会と授業参観日を同じ日にするなどして、保護者に参加していただけるよう工夫している。(校長)

Q：今回の参観では小学部では図工や生活の授業が中心となっているが、授業参観時の教科はどのようにして選んでいるのか。(委員B)

A：年間の参観日程の中で、できるだけさまざまな教科の授業を参観してもらえるようにしている。(教頭)

A：授業アンケートの結果について、校長として課題とと思っていることについて述べる。アンケートでは授業の進め方が子どもの実態にふさわしいのかについて保護者からご意見があった。教員のプライバシーにも配慮しながら保護者からのご意見を伝えていきたい。また、授業で実施しているチームティーチングでの主担当の教員とサブで入っている教員との連携については、管理職による授業観察を通じてよりよいあり方について考えていく。授業の展開はさまざまなので、課題もさまざまなものになる。授業アンケートの結果を踏まえ、授業観察も行いながら全体の底上げを図っていく。(校長)

A：資料のp.12にフロンティア生のアンケート結果があるのでご覧いただければ。もっと学習に取り組みたいといった内容になっている。(教頭)

Q：授業アンケートは今年度はこれで最後になるのか。(委員A)

A：三学期にも実施する。(教頭)

5. 平成29年度学校教育自己診断進捗状況

首席：現在集計した結果について分析している。結果については第三回の協議会で報告する。今回は実施内容について報告する。昨年度とほぼ同じ内容だが、昨年度から変更した点について、教職員、保護者、生徒向けのアンケートにいじめに関する項目を追加している。また教職員向けに、昨年度作成した「キャリア教育に関する評価規準」の校内での活用状況についての項目を追加した。回収率は今年度も高い。教職員が100%、保護者、生徒についても高い割合で提出していただいた。詳しくは第三回の協議会で報

告する。

6. 居住地校交流の進捗状況

首席：小学部 16 名、中学部 15 名の計 31 名が交流を希望。昨年度の 23 名より 8 名増えており、年々希望者は増えている。交流が増えることはよいことであるが、交流を担当できる教員が少なく、年間で交流できる回数も限られており、今後の課題であると考えている。交流の内容については資料をご覧ください。基本的には相手校や保護者のご意見を聞きながら調整している。支援学級との授業交流が一番多いが、小学部では支援学級と学年との交流会が多いので、そちらに参加することで、支援学級だけでなく通常学級とも関わられるようにしている。最近は通常学級との交流も増えている。中学部では、支援学級の授業に参加したり、あるいは運動会や文化祭などの行事に参加することが多いが、最近は通常学級の授業に体験的に参加するケースも増えてきている。保護者のニーズとしては、地域で長い間過ごしてきた子どもたちと触れ合う機会を求めていることが多い。嬉しいケースとしては、居住地校交流に行ったことで保護者同士の交流も深まったというケースがあった。課題はまだ多いが次年度に向けて頑張っていきたい。

（質疑応答）

Q：居住地校交流はいつから実施しているのか。（委員 A）

A：平成 23 年度からなので今年で 7 年目になる。（校長）

Q：参加の希望を募って実施しているのか。（委員 D）

A：その通りに実施している。（首席）

Q：希望者が増えると対応が大変になるのでは。（委員 D）

A：担任が付き添えればいいが、学校の現状を考えると難しい面もある。（首席）

A：居住地校交流は推進していかなければならないが、学校では授業があるので現状は首席が付き添っている。（校長）

Q：居住地校交流を行っていることは保護者に周知しているのか。（委員 C）

A：交流に関する案内は行っているが、保護者に対して具体的に交流の取り組み全体に関する報告はしていない。（校長）

Q：素晴らしい取り組みなので、居住地校交流の成果を報告してはどうか。（委員 A）

A：学校として全体の研究誌が出せていないことは課題である。各学部で学習のまとめは作成し、教職員間で共有している。課題と成果の検証が必要。（校長）

Q：取り組みに関するチェックシートを作成し、交流をスムーズに実施できるよう工夫してみてください。（委員 A）

A：居住地校交流以外にも学校間交流を行っている。高等部は府立山本高等学校と 34

年間交流をしている。小学校は上之島小学校、中学校は上之島中学校と学校間交流をしている。今後も積極的に交流していきたい。(准校長)

A：居住地校交流はインクルーシブ教育システムが推進されるようになってから活発になってきた。学校間交流とも同時進行で進めていかなければならない。最近では居住地校交流に対する地域の学校の理解も深まってきている。(校長)

7. 中河内地域のセンター的機能の取り組み進捗状況について

首席：東大阪支援、八尾支援学校が東大阪市、八尾市、柏原市を中心に地域の学校園と連携している。ケース会議では、放課後等デイサービスなど、外部機関との連携が増えてきた。また、訪問相談では八尾市からの相談件数が増えている。今年度の新たな取り組みとしては夏期休業中に合同相談会の実施および地域支援に関するリーフレットの発行があげられる。支援学校が地域の学校園からの相談に応じることができる、ということを広く情報発信することを目的としている。

(質疑応答)

Q：校内ケース会議はセンター的機能の一部なのか。(委員C)

A：どちらかという校内支援の位置づけとなっている。(首席)

Q：校内ケース会議で連携しているという外部機関とは具体的にはどのような機関のことか。またケース会議ではどのようなことが話し合われているのか。(委員C)

A：子ども家庭センターや放課後等デイサービスなどが中心となっている。話し合う内容はさまざまだが、学校での様子やデイサービスでの様子についての情報交換などを行うことなどがある。(首席)

Q：地域の事業所は学校とのつながりを持ちたいという思いを持っている。(委員C)

Q：ケース会議を進める上で外部機関との連携をするにあたって色々あったかと思うが。(委員D)

A：外部機関とは時間をかけながら関係を築いている最中である。(首席)

Q：外部機関とのつながりは重要であると考え。ケース会議などでは個人情報の問題があると思うがどのようにしているのか。(委員D)

A：以前にくらべさまざまな機関との連携が増えてきている。個人情報については保護者の了解を得た上で実施している。(教頭)

A：福祉とのつながりという点で言うと、高等部卒業後の早期離職を防ぐために、高等部在学中に学校と福祉とが事前につながれるような取り組みを現在進めている。(准校長)

ご意見：高等部在学中に地域とつながっておくことで、卒業後にどこに相談すればいいのかなどがわかり、進路選択にプラスになると考えられる。今後学校と福祉とがどうつながっていくかが大事。今後は教育と福祉とが早い段階からどう連携していくかが重要

になる。個人情報の問題などクリアしなければならない課題もあるが、できることから取り組んで行きたい。(委員F)

ご意見：そういう意味では、この学校協議会は教育と福祉に関わる委員とが一堂に会しているので、教育と福祉の連携のためのいい機会になっている。(委員A)

8. 学校見学会

首席：6月と10月に開催。参加家族の数を集約している。次年度入学対象の園児・児童・生徒でいうと小学部で38家族、中学部で68家族、高等部で54家族の参加があった。近年の傾向としては、年中、小5、中2以下の園児・児童・生徒の参加が増えている。

9. 平成30年度使用教科書

教頭：表の見方について説明していく。表中の「種目」は「教科」を意味している。「A使用の類型別」で「全」という表記は学年全員での使用を意味している。またCにOがついている場合は前の学年から継続して使用しているということ。次に教科書の採択までの流れについて申し上げる。6月上旬に教科書採択に関する説明会があり、それに基づいて各学部、各学年で教科書を選定する。本校では検定教科書だけでなく、児童・生徒の実態に応じて適宜一般図書から選ぶことも多い。一般図書の選定に際しては大阪府から出ている選定資料を基に選んでいる。4～5年に一度その資料は改定される。今年度は改定の年であった。

10. 保護者からのご意見

教頭：事前にご意見を受け付けていたが、今回は特になかった。

11. 准校長より

昨今頭髪指導の件が話題となっている。本校では生徒指導の内規はあるが頭髪については特に定めていないが、校外での実習など、外に出る機会もあるので、状況に応じて、人権に配慮した上での指導を行っている。